

令和5年度 杉原谷小学校 学校評価シート

学校教育目標

いのちと人権を大切にし ころろ豊かにたくましくのびる ふるさと大好き 杉っ子の育成 ～自分・友だち・学校・ふるさと、みんな大好き杉原谷小学校～			
--	--	--	--

本年度の重点目標

1 いのちの大切さと人権尊重の精神を基盤にした、学校経営の推進 2 当たり前に取り組み丁寧にやりきる学びの継続と「対話的な学び」に主眼を置いた、深い学び・生活に生きる学びにつながる授業の創造 3 人・もの・こととのふれあいを通じ、ふるさとを誇りに思う心や将来の夢を育む「ふるさと教育」「キャリア教育」の推進 4 学校と家庭・地域が一体となって子どもを育む、安全で安心な学校づくり			
--	--	--	--

学校自己評価（達成状況）【 A:達成している B:おおむね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】							学校関係者評価
観点	項目		取組（上段）と達成（下段）の状況	評価	総合 評価	課題と改善方策	学校自己評価及び 改善方策の適正さの評価
豊かな心の育成	「心の健康教育」の推進	1	担任の先生と連携し、学期に一度の心の健康教育の実施、1学期と2学期にストレスチェックの実施 計画的に実施できた。1年間の内に担任の先生方にも授業をしてもらった。心の健康教育評価アンケートも実施でき、来年度からの課題をみつめた。	A	A	・評価アンケートを分析し、課題を把握する。また、専門家にも助言をいただき、指導に活かす。 ・機会があれば、保護者にも授業を観てもらい、心の健康教育を啓発していく。	【適正さの評価 A】 本校の児童は、とても豊かな心が育成されている。
	「あったかあいさつ運動」の推進	2	児童会と3年生以上の学級委員によるあいさつ運動の実施 あいさつが形式的になっている部分や個々のばらつきが見られた。	B		・子ども達の中ではあいさつはできているようであるが、地域でのあいさつはできていないように思う。	地域の人に、元気のよいあいさつがさらけできるとよい。
	人権教育の充実	3	毎月のほかほか週間の取組、人権集会の実施 毎月の取組で自分のことをふり返ったり、周りの人々への感謝の気持ちを持ったりする良い機会となった。	A		・あいさつ運動の強化月間を作るなど、あいさつを意識して生活ができるようにしていく。 ・ほかほか週間をつかって人権について考えられるような時間を少しでも取れるように努めたい。	目を見てあいさつすることで、地域との繋がりができる。
	道徳教育の充実	4	教科書及びノートや副読本（心シリーズ等）の活用、週1時間授業の確保 年間指導計画に基づき、教科書及びノートや副読本を活用して授業を行い、週1時間を確保した。	A		・オープンスクールの機会を活かし、年1回、全学年保護者への道徳授業の公開をする。 ・授業を公開・交流し合い、授業力の向上に努める。	
確かな学力の育成	学びの土台作り	5	当たり前前に学び、最後までやりぬく姿勢の涵養 自ら学び、最後までやりぬくことが当たり前前、という学びへの姿勢が定着している。	A	A	・「当たり前前に取り組み、最後までやりぬく姿勢」という学びの姿勢、学習規律の徹底を今後も継続して鍛えていく。 ・「その日の課題はその日のうちに」を今後も実現していけるよう、全職員で意思統一し、組織的に取り組んでいく。	【適正さの評価 A】 学校ではよく取組をされている。
	深い学びにつながる授業づくり	6	「杉小授業モデル2023」の共通理解と実践 4月の研修で授業モデルの共通理解を図り、全学年で取組を進めることができた。	A		・教師間の授業相互見学を今後も行い、学級経営や授業技術、思いを交わらせることで、教師としての力量を高める。	各家庭で、一緒に本読み時間を作るなど、保護者の努力も必要である。
	課題克服に向けた朝学の充実	7	読解力向上に向けた、速読解トレーニングの実施、点検 週に2回速読解を行った。速く正しく読むことへの意識が高まり、力がついてきている。	A		・思考の深まりを意識した対話場面を設定し、見通しをもたせた授業づくりを今後も行っていく。 ・各学年の取組内容について交流したり、指導方法を共有したりして、速読解の質を向上させていく。	あきらめずに取組を継続させてほしい。
	家庭学習習慣の確立	8	チャレンジ家庭学習強化週間（学期に2回）の実施 2学期までの達成状況は、学習時間9.9%、ていねい9.9%、見直し9.7%である。	A		・速読解力の向上に効果的に取り組みやすい資料の選定が必要である。 ・学期に2回、年間6回のチャレンジ家庭学習を継続して実施し、「学習時間・ていねい・見直し」の達成状況で100%を目指す。	ノーメディアを常に呼びかけた方がよい。
	読書活動の充実	9	学校図書館アドバイザーとの連携・読書環境整備・団体貸出・教職員や委員会からの読み聞かせ実施 学校図書館アドバイザーやボランティアとの連携し、図書室・学級文庫の整備に努めた。	B		・今後団体貸出・読書週間・読み聞かせに取り組み、読書習慣の定着を図る。読書環境の向上に努める。 ・ほとんどの家庭で「家庭読書」が実施できている。今後も継続して啓発に努め、定着を図る。	
健やかな体の育成	体力づくりに向けた取組	10	体育ノートの活用と体育の時間の杉小サーキットの実施 体育ノートを活用して体力づくりに取り組むことができた。	B	B	・今後も体育ノートの活用を啓発する。	
	芝生の特性を活かした授業づくり	11	体力アップサポーターの招聘、体力テストの結果を受けた授業改善の取り組み 体力アップサポーター事業を活用することができた。	B		・体力アップサポーター派遣事業をこれからも活用し、専門性の高い指導の機会を確保する。 ・体力テストの結果を分析し、来年度への指導に活かす。教職員で共通理解を図る。	【適正さの評価 A】 子どもたちの体力向上に向けてしっかりと取り組んでいただきたい。
	感染症に対応した生活様式の確立	12	主体的・日常的に継続した感染症予防の実施 新たな取組はできなかったが、日常の中で当たり前前に感染症対策ができつつある。	B		・ハンカチをポケットに入れて持っていない児童が多い。“手を洗う”等の日常の感染症対策＋αができるように指導を継続する。	
	健康情報センターとしての役割	13	《今》必要な健康情報を発信する 読みたくなるほげんだより、興味の持てる掲示を作成する 定期的に、健康情報を発信できた。掲示板は、児童がよく興味を持って観てくれている。	A		・保健給食委員会の主体的な活動ができなかったのも、児童同士の横のつながりから健康意識が高まるよう、健康委員会の活動を啓発していく。 ・引き続き『立ち止まって見たくなる掲示物』『読みたくなる保健だより』の作成に取り組んでいく。	
	自己改善に繋がる食育の推進	14	「食に関する指導計画」に基づき、外部講師や機関と連携した系統だった指導の実施 外部から講師を招き、食育を推進できた。	B		・給食センターの栄養教諭や外部の講師を招聘し、発達段階に応じた食育をより推進していく。 ・今後も、「食に関する指導計画」に基づき、系統だった指導を続けていく。	
生活指導の充実	いじめの未然防止と早期発見	15	学校生活相談シートやストレスチェックによる実態把握と、校務支援ソフトによる情報共有 相談シートやストレスチェックは計画通り実施したが、情報共有をさらに密に図っていきたい。	A	A	・校務支援ソフトへの記入により情報共有がスムーズにできている。得た情報から気づきを発信し、児童理解へとつなげていく。	【適性さの評価 A】 いじめの取組以外の項目についても評価項目をとり言えるべきである。
	いじめの早期解決	16	管理職・生活指導担当を中心とした、いじめ対策委員会とケース会議の実施 生活指導委員会やいじめ対策委員会、ケース会議を随時開催し、早期対応だけでなく未然防止にも努めた。	A		・日頃から各担当と情報共有を行い、会議開催する場合は必要人員を確保し、迅速かつ丁寧な対応に努めていく。 ・中学校の統合に向けて、小学校の事前交流があるとよい。	
ふるさとを愛し、夢を抱く児童の育成	杉原紙学習の推進	17	杉原紙制作のための工程や歴史についての体験学習および展示物の作成 制作工程や歴史について知り、伝統を感じる体験学習ができた。地域の方との交流もできた。	A	A	・杉原紙について、児童の学習した内容を発信する手立てとして掲示物の作成を続けていく。 ・作ったものをどのように加工するかを各学年でリスト化し、なぜ作るのか目的意識をもてるようにしていく。	【適正さの評価 A】 以前行っていた、地域と連携した農業体験を検討してはどうか。
	総合的な学習の時間の充実	18	環境教育・福祉教育など地域に根ざした教育の実施 地域の方が講師として指導することで、地域と連携した総合的な学習ができた。	A		・各学年のテーマと年間の見直し、更には次学年へのつながりを意識した取組を継続する。 ・総合的な学習の成果が当該学年以外に伝わりにくい部分があるため、写真や制作過程などを記録として残し、今後に生かす。	
	ふるさとカリキュラムの有効活用	19	全校生と保護者を対象にしたふるさと検定の実施 98%の児童がふるさと検定を受けた。全家庭数に配布、約7割の家庭で実施・回収し、検定証を配布した。	A		・ふるさと検定は、自分たちの住んでいる地域の歴史や自然等について知るよい機会である。今後も継続して取り組んでいく。 ・講師先生を迎えて話を聞いたり、校外に見学に出かけたりするなど、体験的な理解を伴う活動を今後も取り入れていく。	
	キャリア教育の推進	20	キャリアパスポート前期分・後期分の記入 年度当初と比べ、成長を感じながら記入させることができた。	A		・今後も各行事の後や学期末、学年末に振り返りをさせ、キャリアパスポートの記入だけにとどまらず、新たな課題発見や学習活動への意欲につなげたい。	
防災・安全教育の充実	適切な防災・安全指導	21	校内安全点検・登下校指導・避難訓練の定期的な実施 校内安全点検を複数の目で確認できるようにした。児童が主体的に考えて取り組む訓練を実施した。	A	A	・今年度見つかった課題をもとに、残留者を想定し教師の動きを確認する訓練や、児童が主体的に考えて行動する訓練を実施していく。 ・現状に応じて、登下校指導を柔軟に実施する。 ・複数人体制で行う定期的な校内安全点検を継続する。	【適正さの評価 A】 高学年を対象とした救命救急講習会の開催を検討してはどうか。
	PTA・地域人材との連携	22	PTA活動の推進と見守りボランティアの組織拡充・連携 PTAの朝のあいさつ運動は計画通り実施できた。	B		・PTA活動は可能な範囲で事業を継続し、安全・安心な学校経営に協力を願っていく。 ・PTA朝の立ち番後の保護者アンケートについて 学校だよりで対応を伝える。 ・地域の見守りサポートについては、年度内に登録更新の文書を配布し、組織再編を行う。	
特別支援教育の充実	個別の支援・指導計画の適切な実施	23	支援を要する児童の課題・実態把握と適切な個別の支援・指導計画の実施 専門家を招聘して児童の実態把握の参考とし、より具体的な合理的配慮ができるようにした。	A	A	・要支援児童について、保護者や関係機関と連携して課題や必要な合理的配慮を明確にした指導計画を作成し、支援する。 ・専門家の助言を参考に、校内の支援体制を整え、児童の実態に即した指導ができるよう取り組む。	【適正さの評価 A】
	インクルーシブ教育の推進	24	全ての児童が過ごしやすい学校を目指した合理的配慮のある教育の推進 個々の違いを認め合う集団作りと共に誰もが学びやすい環境作りを行った。	B		・全ての児童が安心して学校生活を送れるように、お互いを認め尊重しあえる集団づくりに取り組む。 ・学校行事や授業等全ての教育活動において、誰もが学びやすいユニバーサル視点のある環境づくりを進めていく。	
情報教育の充実	Chromebookの有効活用	25	思考の共有や表現を支援するツール、または思考を深めるツールとしての活用 思考を表現し、共有する機会が増え、深めるツールとしての活用することができた	A	A	・児童の思考を表現するツールとして、場合に応じて効果的に使用していく。 ・教材配布や動画視聴など授業を支援するツールとして、今後もより有効的に使用できるよう研修・情報共有の時間を確保する。	【適正さの評価 A】 保護者、児童を対象としたSNS講習会を、今後も定期的に開催してほしい。
	情報モラルの育成	26	インターネットの活用における留意点および、向き合い方の確認 各学級での指導を行い、専門家による講演会を行うことができた。	A		・指針は示したが、実際に子ども達がどのように理解しているのかを図る機会が不十分だった。 ・年度当初から情報モラルについての理解を深め、教員全員が同一歩調で取り組めるよう研修を行うことの必要である。	
	プログラミング教育の推進	27	ビジュアルプログラミング（scratch・WEDO）を活用したプログラミング的思考の育成 「学習」「体験」で終わってしまうことで、興味や関心を高めただけになってしまった。	A		・指導要領の内容に授業時間が圧迫され、活動としては不十分なものになってしまった。 ・特別にプログラミング教育を行うのではなく、教科の中で無理なく実施できる内容や外部の出前授業等を活用していく。	
信頼される学校づくり	保護者・地域の要望への対応	28	学校便りの返信欄やアンケートによる保護者の要望把握、迅速な対応 返信欄やアンケート、日々の保護者からの連絡・要望等に迅速な対応を心掛けてきた。	A	A	・今後も、要望等に対して、迅速な対応、真摯な姿勢での対応を心掛けていく。	【適正さの評価 A】
	積極的な公開、情報提供	29	ホームページを週に2回更新 学校便りやメールによる情報の確実な提供 ホームページは、時期によっては一日に複数回の情報発信を行った。学校だよりは計画通り発行した。	A		・小さな事でも学校から情報発信をして、保護者・地域や学校の、双方向の意見交流を進めていく。 ・全校行事や各学年の行事を中心に、日々の授業のようすなどの情報発信に努める。	
	コミュニティ・スクールの設置	30	コミュニティスクールの推進と計画的な組織づくり 学校経営方針の承認、地域との交流活動等についての協議を行った。会議は年間4回計画的に開催した。	B		・地域人材の発掘に向けて、学校運営協議会やPTAと連携して取組を進める。 ・図書ボランティアや紙漕きボランティアなどの地域ボランティアについて、募集チラシを作成配布し次年度の活動につなげる。	